



MINO—TAJIMI

モザイクタイルの聖地

岐阜県の東濃地方(東美濃地域)は、7世紀頃からやきものが作られ、受け継がれてきた1300年の歴史を誇る美濃焼の産地。質のよい土が採掘され、脈々と伝統技術が受け継がれる中、大正時代以降、新たな産業としてタイル産業が隆盛した。戦後の発展、隆盛を導いたのは、多治見市笠原町出身の山内逸三氏が生産技術を確立させた磁器質施釉モザイクタイル。彼は地元企業に技術を公開し、戦後、モザイクタイルはこの町の基幹産業となった。最盛期にはタイル工場は100を超え、現在でも国内のモザイクタイルの約90%を生産。住民の多くがタイル産業に携わるモザイクタイルの聖地—多治見市笠原町に焦点を当て、タイルの過去・現在・未来を紐解く。